

熊 本 大 学
永青文庫研究センター

年 報

第9号

2018

熊本大学永青文庫研究センター

はじめに

2017年は、永青文庫研究センターの歴史を画する年となった。

4月1日、本センターは文学部のもとを離れ、学内共同教育研究施設となり、センター長1名、専任教員1名、兼務教員3名、特別研究員1名、事務補佐員1名という新たな体制で出発した。わけても、日本近世・近代史を専攻し、永青文庫の歴史資料を対象とした研究の蓄積を有する今村直樹准教授が専任教員として着任されたことは、本センターの機能強化にとって画期的であった。

節目の年にふさわしく、本年度も多くの活動に取り組むことができた。まず、永青文庫資料の研究では、昨年度からの地震関係資料の調査を継続し、その成果は、後藤典子研究員による『熊本城の被災修復と細川忠利』（熊日新書、2017年）の出版や、熊本県立美術館との共催展覧会「震災と復興のメモリー@熊本」展（2017年4月14日～5月21日）などに結実した。また、本年度末には、初の研究紀要である『永青文庫研究』創刊号が発刊される。

基礎研究では、永青文庫資料中の初期藩政史料の細目録作成作業、「永青文庫資料総目録」のWeb公開に向けた準備作業を着実に進展させた。総目録のWeb公開は、来年度前半に実現される予定である。

また、2009年以来の基礎研究の成果に依拠して、永青文庫の細川忠興・忠利往復書状等2,363点の熊本県重要文化財への指定が実現したこと、また、細川家第一家老の松井家の文書群（熊本大学所蔵）の基礎調査に着手することができたことも、大きな一歩であった。

研究成果の社会への発信のため、本年度も多くの講演会・展覧会を実施した。学内共同教育研究施設化を記念した講演会「永青文庫 歴史資料研究の現在」（2017年5月13日）、熊本大学附属図書館における第33回貴重資料展「近世熊本城の被災と修復」（2017年11月3日から3日間）、公益財団法人永青文庫における平成29年度冬季展「細川家と「天下泰平」一関ヶ原からの40年―」（2017年12月9日～2018年1月28日）などである。5月の記念講演会及び貴重資料展に付随して実施した永青文庫セミナーの講演資料は、本年報に収録されているので、ご覧いただきたい。

さらに、モスクワで開催された国際歴史会議（2017年9月27日から4日間）には、稲葉が報告者として参加し、「Popular Revolts and Violence in 16th Century Japan」の演題で報告した。この経験は、研究成果の国際化に向けた重要な足掛かりとなった。

今後とも、本センターの活動にご理解・ご協力を頂戴できれば幸甚である。

2018年2月28日

熊本大学永青文庫研究センター長

稲葉 継陽

目 次

はじめに	1
1. 年間活動記録	4
2. 年間活動報告	11
(1) 学内共同教育研究施設への改組	11
(2) 研究活動	11
(3) 展覧会・講演会・地域貢献等	13
(4) その他	15
3. センター教員の年間活動	16
4. 講演要旨	22
(1) 稲葉 継陽「永青文庫研究センター 成果と課題」	22
(2) 今村 直樹「永青文庫藩政史料の魅力」	25
(3) 稲葉 継陽「細川忠利の領国支配と熊本城」	28
(4) Tsuguharu Inaba Popular Revolts And Violence In 16th Century Japan	30

1. 年間活動記録 (講演、会議、打合せ、取材等)

日付	活動内容	担当・打合せ先等
平成29年4月6日	「秘密のケンミン SHOW」(日テレ)取材・撮影	稲葉
4月10日	URA 推進室黒木・藤山氏来訪	稲葉・黒木・藤山 (URA)
4月13日	平成30年度概算要求打合せ	稲葉・増村 (財務)・浜崎 (図書館)
4月14日	熊本県立美術館「震災と復興のメモリー@熊本」展 開会式出席 (共催: ~5/21)	稲葉・後藤
4月16日	「NHK スペシャル 熊本城再建 “サムライの英知” を未来へ」(NHK) 放送	
4月19日	NHK 田村氏来訪・打合せ	稲葉・田村 (NHK)
4月20日	熊本大学同友会例会講演(於メルパルク熊本)	今村
4月21日	熊本日日新聞飛松氏来訪・取材	稲葉・飛松 (熊日)
4月24日	スタッフミーティング	センタースタッフ
4月26日	西日本新聞野村氏来訪・取材	稲葉・今村・野村 (西日本)
4月27日	南島原市教育委員会南浦氏来訪・資料調査 (~28日)	稲葉・南浦 (南島原市)
4月29日	熊本県立美術館展覧会シンポジウム「震災と復興の歴史を振り返る@熊本」出席	稲葉
5月1日	九州文化財研究所上崎氏来訪	稲葉・上崎 (九文研)
5月8日	附属図書館館長訪問	稲葉・高木 (館長)
5月9日	石川県金沢城調査研究所名誉所長北垣氏来訪	稲葉・今村・後藤・北垣
5月10日	熊本県文化協会総会出席	稲葉
5月11日	歴史資料レスキューサポート中野氏ら来訪	稲葉・今村・中野
5月13日	永青文庫研究センター学内共同教育研究施設化記念講演会・レセプション	センタースタッフ
5月15日	平成30年度概算要求打合せ 松本理事来訪	稲葉・増村 (財務)・浜崎 (図書館) 稲葉・今村・松本理事
5月16日	URA 推進室若松氏来訪	今村・若松 (URA)
5月18日	文部科学省訪問・概算要求打合せ (~19日)	稲葉・増村 (財務)
5月22日	沼田家記取材・撮影	稲葉
5月23日	永青文庫林田理事・小松館長・橋本副館長・細川護光氏来訪・貴重書庫視察	稲葉・今村・後藤・林田・小松・橋本・細川 (永青文庫)
5月25日	「秘密のケンミン SHOW」(日テレ) 放送 熊本県文化協会会長吉丸氏来訪 京都出張・研究会参加 (~26日)	稲葉・後藤・吉丸 (県文化協会) 今村
5月26日	市民文化財団奨励賞贈呈式 (於現代美術館)	稲葉・後藤
5月29日	肥後の里山ギャラリー理事会	稲葉

日付	活動内容	担当・打合せ先等
5月31日	熊本地震被災文化財等復興復旧基金配分委員会	稲葉
6月1日	東京・静岡出張、研究会参加・資料調査 (~4日)	今村
6月3日	肥後の里山ギャラリー講演会	稲葉
6月8日	熊日出版村田氏来訪・出版打合せ 「CUBE」(テレビ西日本) 取材・撮影	稲葉・後藤・村田 (熊日出版) 稲葉・池田 (テレビ西日本)
6月9日	昭和堂大石氏来訪・打合せ 森本家文書史料調査・打合せ	稲葉・大石 (昭和堂) 稲葉・後藤・浜崎・川内野 (図書館)
6月12日	平成30年度概算要求打合せ	稲葉・増村 (財務)・浜崎 (図書館)
6月15日	西原校区女性の会50周年記念式典講演	稲葉
6月17日	熊本史学会春季研究発表大会報告 (於熊本県婦人会館) 「土曜ニュースファイル CUBE」(テレビ西日本) 放送	今村
6月18日	NHK カルチャー講演	稲葉
6月19日	富士マイクロ三輪氏来訪・撮影打合せ	稲葉・今村・三輪 (富士マイクロ)
6月20日	永青文庫伊藤氏来訪・展覧会打合せ	稲葉・後藤・伊藤 (永青文庫)
6月24日	「NHK スペシャル 熊本城再建 “サムライの英知” を未来へ」(NHKBS1) 放送	
6月26日	スタッフミーティング 附属図書館館長訪問・打合せ	センタースタッフ 稲葉・後藤・高木 (図書館)
6月27日	森本家当主来訪・森本家文書について打合せ 熊本県立美術館山田氏来訪・展覧会打合せ	稲葉・後藤・高木・浜崎 (図書館) 稲葉・後藤・山田 (県美)
6月29日	大阪大学永野氏来訪	稲葉・永野 (阪大)
7月3日	永青文庫研究センター運営委員会	センター運営委員
7月4日	熊本県文化財保護審議会 (於熊本県庁)	稲葉
7月5日	「大規模災害時における博物館の役割」シンポジウム出席 (於熊本県民交流館パレア)	稲葉
7月7日	永青文庫 (東京) 訪問、展覧会打合せ (~9日)	稲葉
7月8日	熊本近代史研究会7月例会報告 (於熊本市現代美術館)	今村
7月13日	「全国歴史民俗系博物館協議会第6回年次集会」報告 (於九州国立博物館) かもめ印刷小堀氏来訪・打合せ 浅井監事との年度初め情報交換会	今村 稲葉 稲葉・浅井監事
7月15日	「NHK スペシャル 熊本城再建 “サムライの英知” を未来へ」(NHK) 再放送	

日付	活動内容	担当・打合せ先等
7月16日	松本理事宅史料調査	稲葉・今村・松本理事
7月21日	原田学長、JST 濱口理事長他6名図書館貴重書庫視察	稲葉・後藤・原田学長・濱口理事長 (JST)
7月23日	名古屋・静岡出張、研究会参加・資料調査 (~25日)	今村
7月24日	さわやか長寿大学院林田理事来訪・講演打合せ 静岡大学日本史研究会報告 (於静岡大学人文社会科学部)	稲葉・林田理事 (さわやか長寿財団) 今村
7月26日	熊本日日新聞野口氏来訪・打合せ	稲葉・野口 (熊日)
7月29日	肥後の里山ギャラリー講演会	稲葉
8月1日	熊本さわやか大学校講義 (於八代ハーモニーホール)	稲葉
8月2日	立教新座中学校・高校地歴部来訪、資料紹介 (於文学部) 熊本県文化課長来訪・打合せ	稲葉・今村・後藤 稲葉・岡村 (熊本県)
8月3日	永青文庫常設展示基金委員会 (於熊本県庁) 熊本さわやか大学校講義 (於県総合福祉センター)	稲葉 稲葉
8月4日	熊本市役所宮下氏来訪・講演打合せ	稲葉・宮下 (熊本市)
8月9日	永青文庫 (東京) 訪問・展覧会打合せ (~10日)	稲葉・後藤
8月10日	静岡出張、研究会参加・資料調査 (~12日)	今村
8月16日	日本イコモス矢野氏来訪	稲葉・今村・矢野 (イコモス)
8月18日	NHK 山崎氏来訪・番組制作打合せ	稲葉・今村・後藤
8月23日	九州国立博物館松下氏来訪・打合せ ロシア出張打合せ	稲葉・今村 稲葉・後藤・斎藤・坂口
8月24日	熊日出版甲斐氏来訪・打合せ	稲葉・後藤・甲斐 (熊日出版)
8月26日	「近世における歴史資料の伝来と社会」講演会 (於森岳公民館・島原市)	稲葉
8月27日	名古屋出張・資料調査 (~29日)	今村
8月29日	熊日新書出版打合せ (於文学部)	稲葉・後藤・村田 (熊日出版)
8月30日	熊本大学医学部 OB 会八代支部講演会	稲葉
8月31日	熊本県文化財復興復旧基金配分委員会	稲葉
9月4日	千葉大学小関氏、宮内庁書陵部白石氏、神戸大学高槻氏、東海大学神谷氏資料調査・熊本藩研究会 (~5日)	稲葉・今村・小関 (千葉大)・白石 (宮内庁)・高槻 (神戸大)・神谷 (東海大)
9月5日	肥後の里山ギャラリー村田氏来訪・打合せ	稲葉
9月7日	国立歴史民俗博物館館長久留島氏、天野氏来訪	稲葉・今村

日付	活動内容	担当・打合せ先等
9月14日	原田学長面談 (於学長室) (財)永青文庫伊藤氏来訪・展覧会打合せ	稲葉・原田学長 稲葉・後藤・伊藤 (永青文庫)
9月18日	静岡出張、資料調査・静岡大学集中講義 (~30日)	今村
9月19日	松本理事面談	稲葉・松本理事
9月20日	ロシア出張打合せ	稲葉・後藤・坂口・斎藤
9月21日	熊日出版村田氏来訪・新書原稿提出 朝日新聞山田氏来訪・取材	稲葉・後藤・村田 (熊日出版) 稲葉・山田 (朝日)
9月23日	静岡県地域史研究会シンポジウム司会	今村
9月25日	ロシア出張 (~30日)	稲葉・後藤・斎藤
9月28日	国際歴史会議「ANATOMY OF CIVIL WAR」出席・報告 (於ロシア科学アカデミー・モスクワ)	稲葉・後藤・斎藤
10月5日	熊本県文化課松永氏・木村氏来訪、打合せ	稲葉・松永・木村 (熊本県)
10月7日	福岡出張、共同研究打合せ・研究会報告	稲葉・今村
10月10日	熊本県庁文化課来訪、県指定文化財について打合せ	稲葉・岡村 (熊本県)
10月14日	熊本被災史料レスキューネットワーク主催シンポジウム「阿蘇神社 被災神社の歴史再発見」開催	稲葉・今村
10月16日	スタッフミーティング	センタースタッフ
10月17日	ソフトシンク山氏来訪、総目録 Web 公開・センター HP 改修打合せ	稲葉・今村・後藤・坂口・一山 (ソフトシンク)
10月18日	熊日出版村田氏来訪・打合せ	稲葉・後藤・村田 (熊日出版)
10月19日	熊本県文化財復興復旧基金配分委員会	稲葉
10月25日	熊本市「そなえる防災講座」講演会 (於熊本県民交流館パレア)	稲葉
10月26日	熊本大学工学部工業化学科同窓会講演 (於熊本大学附属図書館) NHK スペシャル取材	今村 今村・山崎 (NHK)
10月27日	静岡出張、資料調査 (~29日) NHK 取材・撮影 (於静岡県伊東市)	今村 今村
11月1日	熊日出版村田氏来訪・出版打合せ	稲葉・後藤・村田 (熊日出版)
11月1日	城南町文化財保護委員来訪	稲葉・三澤
11月2日	貴重資料展準備	稲葉・後藤・浜崎・川内野・上原 (図書館)
11月3日	第33回貴重資料展「近世熊本城の被災と修復」開催 (~5日) 第12回永青文庫セミナー「細川忠利の領国支配と熊本城」開催	来場者：435名 熊本大学附属図書館1F 稲葉 参加者：137名

日付	活動内容	担当・打合せ先等
11月5日	第12回ホームカミングデー「細川三代と天下人たち」講演会	稲葉
11月8日	FM くまもと伊佐坂氏他2名貴重書庫視察	稲葉・後藤・伊佐坂 (FM くまもと)
11月10日	筑波大学水野氏来訪・資料調査 佐賀大学三ツ松氏来訪・資料調査	稲葉・今村・後藤・水野 (筑波大) 今村・三ツ松 (佐賀大)
11月11日	愛知県出張、資料調査 (～12日)	今村
11月13日	熊日出版村田氏来訪・出版打合せ	稲葉・後藤・村田 (熊日出版)
11月14日	熊日飛松氏来訪・取材	稲葉・飛松 (熊日)
11月15日	永青文庫 (東京) 訪問・展覧会打合せ (～16日)	稲葉・後藤
11月17日	ソフトシンク、総合情報統括センター HP 改修打合せ	坂口・一山 (ソフトシンク)
11月20日	カマノ商会江上氏来訪・資料撮影打合せ 東京大学史料編纂所山口・及川・林所員来訪、資料調査 (～22日)	今村・江上 (カマノ商会) 稲葉・今村・山口・及川・林 (東大)
11月22日	情報セキュリティ監査 熊日出版村田氏来訪・出版打合せ	今村 稲葉・後藤・村田 (熊日出版)
11月24日	松本理事、ミュージックセキュリティーズ小松氏貴重書庫視察	稲葉・松本理事・小松 (MS)
11月27日	静岡出張、資料調査 (～29日) 熊日フリーライター福永氏来訪・取材	今村 稲葉・福永
11月28日	熊日出版村田氏来訪・出版打合せ	稲葉・後藤・村田 (熊日出版)
12月2日	肥後の里山ギャラリー講演会	稲葉
12月3日	熊本被災史料レスキューネットワーク主催シンポジウム「熊本の歴史地震に学ぶ 応天門の変と9世紀肥後地震」開催	稲葉・今村
12月4日	熊日出版訪問、出版打合せ	稲葉・後藤
12月5日	ソフトシンク一山氏・高橋氏来訪、総目録Web 公開打合せ	稲葉・今村・坂口
12月6日	永青文庫古文書修復打合せ	稲葉・今村・川内野 (図書館)
12月8日	静岡出張、研究会報告・資料調査 (～10日)	今村
12月8日	永青文庫 (東京) 訪問、展覧会プレスリリース	後藤
12月9日	永青文庫平成29年度冬季展「細川家と「天下泰平」一関ヶ原からの40年」開催 (～1月28日) 展覧会ギャラリートーク開催 肥後の里山ギャラリー講演会 静岡歴史教育研究会報告 (於静岡大学人文社会科学部)	後藤 稲葉 今村

日付	活動内容	担当・打合せ先等
12月10日	永青文庫平成29年度冬季展記念講演会「天下泰平」の確立と細川家」開催	稲葉
12月12日	紀要「永青文庫研究」刊行打合せ	今村・吉田 (よしみ工産)
12月14日	永青文庫 (東京) 訪問、打合せ (～16日)	稲葉・今村・後藤
12月15日	永青文庫細川理事長、熊大原田学長会談 (於永青文庫)	稲葉・今村・後藤・原田学長・細川理事長 (永青文庫)
12月17日	明治維新史学会大会準備会 (於立教大学)	今村
12月21日	熊日新書「熊本城の被災修復と細川忠利」納品 西日本新聞国崎氏来訪・取材	稲葉・後藤・村田 (熊日出版) 稲葉・国崎 (西日本新聞)
12月22日	九州国立博物館萬納氏来訪 デジタルアーカイブ室長山尾氏来訪・打合せ	今村・萬納 (九国) 稲葉・今村・山尾
平成30年1月5日	(財)永青文庫林田理事来訪・打合せ	稲葉・今村・後藤
1月6日	京都出張、研究会参加 (～7日)	今村
1月9日	熊本日日新聞飛松氏来訪・取材	稲葉・後藤・飛松 (熊日)
1月10日	東京出張、資料調査 (～11日)	今村
1月11日	熊本県知事訪問、新書寄贈	稲葉・後藤・林田 (永青文庫)・蒲島知事 (熊本県)
1月11日	「新日本風土記」(NHKBS プレミアム) 取材・撮影 (於山鹿チブサン古墳)	稲葉
1月16日	熊本県立美術館山田氏来訪・展覧会打合せ	稲葉・後藤・山田 (県美)
1月24日	熊本県文化課岡村課長来訪・打合せ	稲葉・岡村 (熊本県)
1月25日	南島原市教育委員会南浦氏来訪、展覧会資料搬出 県指定文化財のための永青文庫目録調査 九州国立博物館萬納氏来訪・資料搬出	稲葉・川内野 (図書館)・南浦 (南島原市) 稲葉・後藤・内堀 (熊本県) 今村・萬納 (九国)
1月26日	静岡出張、資料調査 (～28日)	今村
1月27日	八代市立博物館林氏来訪、展覧会打合せ 永青文庫 (東京) 訪問、打合せ (～28日) 静岡県地域史研究会1月例会報告 (於あざれあ)	稲葉・後藤・林 (八代市博) 稲葉・後藤 今村
1月28日	富士・沼津・三島3市歴史講座「幕末・明治の富士・沼津・三島」講演 (於三島市民生涯学習センター)	今村
1月31日	熊本市文化振興課松永氏来訪・打ち合わせ	今村・松永 (熊本市)
2月1日	熊本県教育長・教育委員、貴重書庫視察 よしみ工産吉田氏来訪・紀要刊行打合せ	稲葉・今村・後藤・林田 (永青文庫)・宮尾 (教育長) 今村・吉田 (よしみ工産)
2月6日	高橋酒造広末氏来訪・打合せ	稲葉・今村・広末 (高橋酒造)

日付	活動内容	担当・打合せ先等
2月7日	永青文庫閲覧業務についての打合せ	稲葉・今村・後藤・川内野・上原 (図書館)
2月8日	平成30年度文部科学省エントランス企画展示 打合せ	稲葉・今村・後藤・浜崎 (図書館)
2月9日	熊本さわやか大学院講座 (於県総合福祉センター)	稲葉
2月15日	よしみ工産吉田氏来訪・紀要刊行打合せ 松井家文書目録作成作業開始	今村・吉田 (よしみ工産) 稲葉・今村
2月17日	「島原大移住 戦乱の終わりから復興へ」 (南島原市) 特別展講演会	稲葉
2月19日	熊本県文化財復興復旧基金配分委員会	稲葉
2月20日	熊本市震災宅地対策課米野氏ほか5名来訪・ 打合せ 朝日新聞取材	稲葉・米野 (熊本市) 稲葉
2月22日	インドネシア大学教員10名、永青文庫研究セ ンター・貴重書庫視察	稲葉・今村・後藤
2月23日	「新日本風土記「熊本」(NHKBS プレミアム) 放送	
2月26日	熊本県文化課池田氏来訪	稲葉・池田 (熊本県)
2月27日	熊本県文化財保護審議会	稲葉
2月28日	永青文庫細川護光理事・林田理事懇談会	稲葉・後藤・今村・細川・林田 (永青文庫)
3月2日	J:COM 取材・撮影	稲葉
3月4日	京都・静岡出張、研究会参加・資料調査 (～6日)	今村
3月5日	京都出張、現地調査・資料調査 (～8日)	稲葉・後藤・山田(県美)・林(八代)
3月9日	熊本県文化財復興復旧基金配分委員会	稲葉
3月13日	東京大学史料編纂所山口・林所員来訪、資 料調査 (～15日)	稲葉・今村・山口・林 (東大)
3月15日	「文化財レスキュー市民サポーター養成講座」 講師 (於熊本県博物館ネットワークセンター)	今村
3月16日	宇土市高月邸保存活用検討会	今村
3月17日	シンポジウム「大学と地域歴史文化資料の調 査・研究・展開」コメント (於長崎大学)	今村
3月19日	みらい研究推進事業 成果報告会	稲葉
3月23日	静岡・東京出張、研究会参加 (～28日)	今村
3月24日	「公議」研究会報告	今村
3月26日	「郷と村の国際比較史」研究会報告	今村
3月28日	吉川弘文館にて出版打合せ 永青文庫にて講演・出版打合せ	稲葉・今村 稲葉・今村

2. 年間活動報告

(1) 学内共同教育研究施設への改組

永青文庫研究センターは、本年度より文学部のもとを離れ、学内共同教育研究施設「熊本大学永青文庫研究センター」として新たなスタートを切ることとなった。これは、数ある大名家資料群のうちでも質量ともに最高レベルにある「熊本大学寄託永青文庫資料」をはじめとする熊本藩関係資料を対象とした研究を、熊本大学ならではの特色ある研究・社会貢献重点領域と位置付け、事業を一層推進していくための改組である。

改組にあわせて、新たに専任教員として今村直樹准教授が着任した。近世後期社会研究を専門とする。今村准教授が加わることによって、本年度より永青文庫研究の進展と研究成果の教育への反映、及び地域社会への発信といった本センターの機能は、格段に強化された。

今後も、文学部附属永青文庫研究センターにおける実績と成果をふまえて、研究面・教育面・地域社会貢献面のいずれの分野においても、さらなる飛躍を目指して活動していく所存である。

(2) 研究活動

1) 総目録データ web 公開準備

2015年に刊行した総目録の WEB 公開 (検索機能付き) の準備を整えた。来年度以降、総目録データベースの本格的な活用が見込まれる。

このデータベースは永青文庫研究センター HP 内に増設され、利用当初に登録手続きを行うことで、全国誰でも「熊本大学寄託永青文庫資料 総目録」を参照することが可能となる。総目録閲覧の物理的制約がなくなり、またキーワード検索機能によって、調査上のキーワードを瞬時に抽出するが可能になることから、永青文庫資料の研究環境は飛躍的に改善されることになる。

なお WEB 公開は、これに対応する新しい資料閲覧態勢が完全に整った段階で、2018年度の早い時期に実施する予定である。

2) 画像データの蓄積と分析

本年度は永青文庫細川家資料をはじめとする歴史資料について、新たな画像データの蓄積を行った。

永青文庫資料細川家資料の中からは天草島原一揆関係の文書控え冊子と一揆の一次史料を多く引用した家譜類、近世後期の藩政・地域行政関係史料群の撮影を実施した。

撮影した画像データの詳細は分析中だが、成果の一部については、2018年2月に南島原市で行った講演会等に活かされている。

来年度以降、永青文庫資料総目録データベースが本格的に稼働するにあたり、研究のための閲覧申請がこれまでよりも増加することが想定されるため、この面での画像データの蓄積・活用もセンターの重要な業務の一つとなる。来年度以降も継続して画像データを蓄積していく計画である。

3) 初期藩政冊子史料の解析

近世初期永青文庫細川家文書の総合的解析による藩政確立過程の研究を推進するため、17世紀前半までの冊子体の藩政史料群について、一冊ごとの内容の細目録を作成することを通じて、その全容を詳細に明らかにし、併せて近世大名領国における藩政の形成過程を解明する研究事業である（科研費基盤（B）：近世初期永青文庫細川家文書の総合的解析による藩政確立過程の研究：研究代表者・稲葉）。

2015年度から開始された本研究の成果として、2018年3月中旬の時点で、元和～寛永期（細川忠利代）の書状案等約12,600点の目録が作成された。

4) 国際歴史会議総会（モスクワ）での講演

2017年9月、ロシア科学アカデミーで国際歴史会議総会「ANATOMY OF CIVIL WAR」が開催され、永青文庫研究センターより稲葉継陽センター長が報告者として招致された。本会議は、9月27～29日の3日間にわたって行われ、28日のICHSシンポジウムにおいて研究報告「Popular Revolts and Violence in 16th Century Japan(at the Age of Civil Wars)」を行った。欧州・アジア・米国などさまざまな国と地域の研究者が多数集まり、報告がなされる場で、永青文庫資料研究についての発表を行うことができたのは、欧州社会との比較研究、研究の国際化の進展という面で、センターの研究活動における大きな経験となった。

5) 細川忠興・忠利発給文書群の熊本県重要文化財への指定

2018年2月27日に開催された熊本県文化財保護審議会にて、熊本大学附属図書館に保管されている慶長5年（1600）から正保2年（1645）までに細川忠興・忠利・光尚の三代の間で取り交わされた書状の原本及び写し2,363点について、熊本県重要文化財への指定が答申された。指定文書群は以下の4つの系統から成る。

第一の系統は、忠興から忠利に宛てた書状の原本1,828点である。慶長5年から寛永18年（1641）までに取り交わされた書状で、江戸と領国との間を交互に参勤交代していた忠興・忠利が、幕政・藩政に関する情報のほか、茶の湯、武家故実、鷹狩など文化的な情報をも交換した書状群である。当時の幕藩関係をめぐる記述は群を抜いて繊細で、加藤家改易時からの熊本藩の内政や地域社会の状況を伝える記述も重要である。特に江戸初期の熊本地域の社会状況を伝える一次史料としては唯一無二の存在である。

第二の系統は、忠利から忠興へ宛てた書状及び案文冊子49点である。原本の大半は忠興の手元から散逸してしまったが、元和8年（1622）から寛永18年までの書状起草時に作成された案文（写し）の書き留めが、冊子の状態で現存する。

第三の系統は、忠興から光尚に宛てた書状の原本90点である。寛永9年から正保2年までに取り交わされた書状で、江戸の光尚からの音信に答えたものや、忠利の危篤を報じた書状が含まれるなど、忠興自身や忠利の動静を報じるものが多く残る。

第四の系統は、忠利から光尚に宛てた書状の原本396点である。寛永9年から寛永18年までに取り交わされたもので、熊本入国時の社会状況を江戸の光尚に詳細に伝えた重要な書状群である。島原一揆に出陣した光尚への書状は、一揆鎮圧の政治的本質に触れる内容をもつものである。

以上のように、指定文書群は肥後細川家に伝わった近世初期の政治史・藩政史研究の第一級

の資料であり、文書の状態も極めて良好である。

本文書群の指定には、永青文庫研究センターが作成した熊本大学寄託永青文庫細川家資料総目録が活用された。本センターの基礎研究の成果が文化財保護行政に直接活かされたことは特筆に値する。

6) 熊本大学所蔵松井家文書の基礎調査

織田信長のもとでの肥後細川家の出発から熊本での廃藩置県に至るまで、一貫して主席家老の地位にあった松井家には、近世初期から明治初頭までの膨大な数の古文書・古記録が蓄積された。そのうちから1957年と1963年の二度にわたって、約40,000点が熊本大学に譲渡・寄贈され、やがて1973年に建設された現附属図書館内の貴重書庫へと搬入された。

本史料群は、永青文庫細川家の史料とならぶ第一級の歴史資料群であり、大名当主家・藩庁と家老家で合わせて100,000点に達する資料群を当該地方の大学が管理し、教育研究に活用している例は他にない。

本センターでは、松井家文書を駆使することができる環境を整えるため、2018年度以降、目録作成と画像データの蓄積作業に着手する予定である。

本年度はその前段階として、附属図書館貴重書庫への搬入以来まったく手付かずであった一紙文書群等13箱について、史料一点ごとの確認調査、封筒づめ及びクリーニング作業を実施した。

7) 紀要『永青文庫研究』の創刊

永青文庫研究センターが学内共同教育研究施設として新たな出発を迎えるにあたり、本年度から紀要『永青文庫研究』を創刊する運びとなった。

文学部附属のセンターとして2009年4月に発足して以降、本センターは『永青文庫叢書』『永青文庫細川家資料総目録』をはじめとする研究・出版活動、関係各機関と協力した展覧会の開催、マスメディアを通じた研究成果の公開など、学界と地域の双方に向けて活動を展開してきた。そのような実績をもとに、新たに研究紀要という形で、永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料を対象とした研究成果を世に問うことができるようになった。

この『永青文庫研究』創刊号には、論文1本、研究ノート1本、史料紹介2本、書評1本を収録することができた。

この紀要は、本センターの目的を体現するとともに、人文社会科学分野の情報発信の手段として成果を公表し、かつ問題を提起し続け、学問研究の発展と地域文化振興に寄与するものとして、今後毎年刊行されることになる。

(3) 展覧会・講演会・地域貢献等

1) 第33回 熊本大学附属図書館貴重資料展「近世熊本城の被災と修復」（2017年11月3日～11月5日、熊本大学附属図書館と共催）の開催

2) 第11回 永青文庫セミナー 稲葉継陽「細川忠利の領国支配と熊本城」（2017年11月3日、熊本大学附属図書館と共催）

2016年4月の熊本地震で甚大な被害を受けた熊本城の姿は、「史上最大級の文化財被災」として全国に衝撃を与えた。しかし、永青文庫細川家の文献資料を調査してみると、熊本城はず

で加藤時代から地震等によって被災し、その修復が細川家にとっても大きな課題となったことが判明した。本展覧会では、細川忠利の城主時代（1632～1641）に焦点を絞り、熊本城の修復への取組みや、城の管理のあり方を、藩政・幕藩関係の中に位置付けながら紹介した。また、天守閣の管理に関する森本義太夫家文書も初公開した。

来場者は、貴重資料展開催以来過去最高の435名にのぼり、2)の講演会来聴者数も137名に達した。会場では、報道関係者による取材と撮影が行われ、新聞記事への掲載やテレビ報道もなされるなど、反響の大きい展覧会となった。

3) 熊本県立美術館「特集 震災と復興のメモリー@熊本」(2017年4月14日～5月21日)の開催

本展は、古代・近世・近代の熊本地域における地震史料を展示するものとして企画され、大きな反響を呼んだ。永青文庫研究センターは熊本県立美術館等と本展を共催し、近世熊本の地震関係史料の最新の調査成果を提供し、図録の執筆・作成に加わった。なお、展示品の選定作業そのものに本センター作成の永青文庫資料総目録データが活用されたことを特記しておく。

本展は好評を博して、展示図録は完売した。また会期中には関連シンポジウム「震災と復興の歴史を振り返る @ 熊本」が県立美術館講堂にて開催され、パネリストとして稲葉センター長が参加した。

4) 永青文庫平成29年度 冬季展「細川家と『天下泰平』」(2017年12月8日～2018年1月28日)の開催

2018年4月に熊本大学永青文庫研究センターが設立10周年を迎えることを記念して、公益財団法人永青文庫で開催された本展には、共催の本センターも企画段階から協力し、2009年以來の永青文庫細川家資料を対象とした調査・研究成果を反映した展示がなされた。また、2016年の熊本地震後の文化財レスキュー活動によって発見された新出文書も、併せて展示公開された。展覧会期間中には、後藤典子研究員によるギャラリートークをはじめとして、稲葉センター長による記念講演会「『天下泰平』の確立と細川家」も行われた。

本展には実質開館34日間に2,658人が来館し、展覧会の詳細内容を掲載した『季刊永青文庫』100号も完売した。本センターの研究成果を東京にて発信するまたとない機会として、極めて有益であった。

5) 後藤典子『熊本城の被災修復と細川忠利』(熊日新書)の刊行

本センターでは、2016年4月の熊本地震の後、細川忠利期の熊本城の被災と普請に関する永青文庫細川家の膨大な歴史資料を徹底的に調査した。10か月間にも及ぶ調査によって判明した近世初期熊本城の被災と修復の現実を後藤研究員がまとめたのが、同「細川忠利期における熊本城普請」(『永青文庫研究センター年報』8、2017年3月、所収)であった。本書は、この論文を一般読者向けに書き改めて、熊本日日新聞社から新書として出版したものである。

本書は永青文庫の多数の一次史料をすべて現代語訳して引用し、加藤家の跡をうけて熊本城の被災に立ち向かい、城の修復と国の支配に打ち込んだ細川忠利の激動・驚愕の9年間を活写している。

永青文庫細川家資料を対象とした最新の研究成果を、地元出版社から一般向けに入手しやすい形態で公表できたことは、本センターの地域社会への貢献活動としても特筆すべき成果であった。また、熊本の歴史文化を理解する上で、永青文庫細川家資料をはじめとする一次史料

がいかに上質な情報源であるかを広く社会に示した点でも、意義深い出版であった。

6) メディアへの協力

NHKなどテレビ局の番組制作に協力し、「NHKスペシャル 熊本城再建“サムライたちの英知”を未来へ」「土曜ニュースファイル CUBE」など、いくつかの番組が放送された。本年報の「年間活動記録」の欄を参照されたい。

このうち、「NHKスペシャル 熊本城再建“サムライの英知”を未来へ」は、熊本地震発災から1年をうけて、被災した熊本城に焦点をあてた番組であり、熊本城の石垣や永青文庫の歴史資料から分かる江戸時代の熊本城の被災と修復の実際が紹介された。本番組は、4月放送を初回としてBSなどで数回再放送されるなど、非常に反響の大きいものであった。改めて熊本城とその歴史に対する全国的な関心の高まりを窺うことができ、その中で永青文庫研究センターとして歴史資料研究の成果を発信することができた点は、大きな成果であった。

7) その他

本センターの専任教員及び兼務教員は、それぞれの永青文庫資料等の研究成果の普及のための講演等を数多く担当した。本年報の「3. センター教員の年間活動」欄を参照されたい。

(4) センターの運営資金

学内共同教育研究施設へと改組となったことに関連して、センターの運営資金が大きく変化した。

発足当初よりこれまでは、肥後銀行をはじめ、熊本放送文化振興財団あるいは熊本の有志の方々からの寄付金を基に熊本県庁に設けられた「永青文庫常設展示振興基金」が主とした財源であったが、本年度より、センターの事業が国の概算要求予算事業「熊本藩大名資料群の総合的分析による日本近世史研究拠点・歴史文化情報発信拠点の形成」として採択され、5年間の予算配分を受けることとなった。また、本学の重点研究支援事業である「みらい研究推進事業」にも、「熊本藩資料群の総合的解析による日本近世史研究拠点の形成」が採択され、本年度より3年間、研究資金が配分されることになった。

この2つの事業からの予算配当がセンターの主とした運営予算となり、これにセンター専任教員の科学研究費補助金を加えて、来年度以降もセンターの事業運営を実施していく。

3. センター教員の年間活動

稲葉継陽

各種委員会

人吉城跡調査検討委員、佐敷城跡調査検討委員（芦北町）、宇土城跡調査検討委員、菊之城史跡調査検討委員（菊池市）、棚底城跡活用計画策定委員（天草市）、上天草市史編纂委員、公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金理事、熊本県文化財保護審議委員、平成29年被災文化財等復旧復興基金配分委員（熊本県）

論文

- ・「総論 細川家臣団起請文にみる熊本藩「国家」の形成」（公益財団法人永青文庫平成27年春季展図録『細川家起請文の世界』2017年12月、pp.5-9）
- ・「熊本における被災文化財レスキュー活動」（『歴史学研究』961、2017年9月、pp.18-21）
- ・「「天下泰平」の確立と細川家」（『季刊 永青文庫』No.100、2017年12月、pp.7-14）
- ・「Movable Cultural Properties」（『The Kumamoto Earthquake-Report on the Damage to the Cultural Heritage-』日本イコモス国内委員会、2017年12月、pp.71-73）
- ・『近世熊本城の被災と修復』（稲葉継陽・後藤典子編著、第33回熊本大学附属図書館貴重資料展解説目録、2017年11月、全18頁）

研究発表

- ・「Popular Revolts And Violence In 16th Century Japan」国際歴史会議「ICHS シンポジウム ANATOMY OF CIVIL WAR」、2017年9月28日、ロシア科学アカデミー（モスクワ）
- ・「初期小倉藩・熊本藩の手永制と惣庄屋」記録資料館九州文化史資料部門共同研究会「近世小倉藩・熊本藩における手永制の研究」、2017年10月7日、九州大学西新プラザ

講演

- ・「震災が近世熊本に与えた社会的影響について—熊本城の被災と「肥後迷惑」を素材に—」「震災と復興の歴史を振り返る@熊本」熊本県立美術館展覧会シンポジウム、2017年4月29日、熊本県立美術館本館講堂
- ・「永青文庫研究センター 成果と課題」永青文庫研究センター学内共同教育研究施設化記念講演会、2017年5月13日、熊本大学工学部百周年記念館
- ・「古文書講座13 熊本における歴史資料の伝来と社会」肥後の里山ギャラリー 平成29年度古文書講座、2017年6月3日、肥後の里山ギャラリー
- ・「近世熊本の被災と復興—震災、台風災害、津波被害—」西原校区女性の会50周年記念式典、2017年6月15日、西原コミュニティーセンター
- ・「近世熊本の被災と復興—熊本城と地域社会—」NHK カルチャー講座、2017年6月18日、鶴屋百貨店ウィング館6階
- ・「古文書講座14 熊本城下町の形成と戦国社会」肥後の里山ギャラリー 平成29年度古文書講座、2017年7月29日、肥後の里山ギャラリー
- ・「震災が近世熊本に与えた影響について—熊本城と地域社会—」くまもとさわやか大学

校 八代校講座、2017年8月1日、八代ハーモニーホール

- ・「震災が近世熊本に与えた影響について—熊本城と地域社会—」くまもとさわやか大学校 熊本校講座、2017年8月3日、熊本県総合福祉センター
- ・「近世における歴史資料の伝来と社会」第212回市民文化講座・島原図書館郷土史を学ぼう会、2017年8月26日、森岳公民館大ホール
- ・「戦国期八代地域における戦争と平和」熊杏会八代支部総会 特別講演、2017年8月30日、セレクトロイヤル八代
- ・「歴史から見る熊本の災害」熊本市そなえる防災講座、2017年10月25日、熊本県民交流館パレア
- ・「細川忠利の領国支配と熊本城」第12回永青文庫セミナー、2017年11月3日、熊本大学附属図書館
- ・「細川三代と天下人たち—古文書からしか聞こえない声がある—」第12回ホームカミングデー講演会、2017年11月5日、熊本大学工学部2号館
- ・「江戸時代熊本の災害と保田窪鉄砲衆」西原一町内文化祭、2017年11月26日、西原一町内公民館
- ・「古文書講座15 近世初期の震災と熊本城」肥後の里山ギャラリー 平成29年度古文書講座、2017年12月2日、肥後の里山ギャラリー
- ・「古文書講座16 近世熊本の被災と復興」肥後の里山ギャラリー 平成29年度古文書講座、2017年12月9日、肥後の里山ギャラリー
- ・「「天下泰平」の確立と細川家」永青文庫平成29年度冬季展記念講演会、2017年12月10日、肥後細川庭園松聲閣
- ・「近世初期の震災と熊本城」くまもとさわやか大学校 大学院講座、2018年2月9日、熊本県総合福祉センター
- ・「近世初期の百姓と統治権力—島原一揆後の地域復興をめぐって—」南島原市・西南学院大学博物館連携特別展講演会、2018年2月17日、口之津公民館

シンポジウム パネリスト

- ・「震災と復興の歴史を振り返る@熊本」熊本県立美術館展覧会シンポジウム、2017年4月29日、熊本県立美術館本館講堂
- ・「大規模災害時における博物館の役割」パレアアクシア企画展 関連シンポジウム、2017年7月5日、熊本県民交流館パレア

雑誌連載

- ・「永青文庫 歴史万華鏡」(24)～(35)『阿蘇』1020～1031号、2017年4月～2018年3月
- ・「細川家文書の世界」第10・11回『季刊永青文庫』No.98・99、2017年6月・9月

新聞連載・寄稿

- ・「くまにち論壇 380年前の熊本城主からの警告」『熊本日日新聞』2017年4月30日朝刊
- ・「くまにち論壇 公論尊重と私欲否定の原則」『熊本日日新聞』2017年7月30日朝刊
- ・「くまにち論壇 人吉城で考える文化財保護」『熊本日日新聞』2017年10月29日朝刊
- ・「江戸時代 描き直す呼び水に 築山家文書」『熊本日日新聞』2017年12月9日朝刊
- ・「くまにち論壇 阿蘇神社「天保の大造営」と今」『熊本日日新聞』2017年12月31日朝刊

今村直樹

各種委員会

熊本県議会史編纂委員、宇土市高月邸保存活用検討会委員、愛知県史編さん委員会調査執筆協力員、豊田市史編さん委員会調査執筆協力員、伊豆の国市史跡等整備調査委員会委員

論文

- ・「熊本地震と古閑家文書」(『史料ネット News Letter』85号、2017年6月、pp.3-4)
- ・「近世後期日本の『地方税』を考える—熊本藩領の会所官銭と会所並村出米銭を事例に—」(『熊本近代史研究会会報』548号、2017年8月、pp.2-10)
- ・高島正憲・深尾京司・今村直樹「成長とマクロ経済」(深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史 第2巻 近世』岩波書店、2017年8月、pp.2-22)
- ・今村直樹・中林真幸「所得と資産の分配」(同上、pp.33-60)
- ・「鉱工業生産の数量的接近」(同上、pp.216-238)
- ・深尾京司・斎藤修・高島正憲・今村直樹「生産・物価・所得の推定」(同上、pp.283-300)
- ・「近世後期日本における百姓の『身上り』運動と村—熊本藩領の事例から—」(羽賀祥二編『近代日本の地域と文化』吉川弘文館、2018年3月、pp.130-157)
- ・「廃藩置県後の細川家当主所用甲冑と旧家臣」(『永青文庫研究』創刊号、2018年3月刊行予定)
- ・「幕末・明治前期における茶生産の地域的展開—熊本藩(県)域を事例に—」(静岡大学『アジア研究』別冊8号、2018年3月刊行予定)
- ・「永青文庫研究・熊本被災資料レスキュー活動と歴史教育」(『歴史教育の地域的基盤形成を促進する教材・教授方法の探究と高大連携の継続 平成29年度人文社会科学部学部長裁量経費成果報告書』静岡大学人文社会科学部社会学科歴史学コース、2018年3月刊行予定)
- ・「熊本震災と被災資料レスキュー活動」(『年報近現代史研究』10、2018年3月刊行予定)

研究発表

- ・「近世後期熊本藩領における『身上り』運動と村」熊本史学会春季研究発表大会、2017年6月、熊本県婦人会館
- ・「近世日本の『地方税』を考える—熊本藩領の会所官銭と会所並村出米銭を事例に—」熊本近代史研究会7月例会、2017年7月、熊本市現代美術館
- ・「葦山代官江川氏の土地所有権と明治維新」静岡大学日本史研究会、2017年7月、静岡大学人文社会科学部
- ・「文政期の徳川将軍家養子一件と熊本藩」熊本藩研究会、2017年9月、熊本大学文学部
- ・「シンポジウム『近世の駿豆地域と葦山代官江川氏』趣旨説明」2017年度静岡県地域史研究会シンポジウム、2017年9月、静岡県男女共同参画センターあざれあ
- ・「明治初年の旧葦山代官江川氏と『御困地』」静岡県地域史研究会1月例会、2018年1月、静岡県男女共同参画センターあざれあ
- ・「近世後期藩領国の地域行政と明治維新」「公議」研究会、2018年3月、ルノアール貸会議室プラザ

- ・「近代移行期日本の統治権力と郷領域」「郷と村の国際比較史」研究会、2018年3月、東京大学農学部

講演

- ・「江戸時代の『地方自治』と明治維新—熊本藩から—」熊本大学同友会例会、2017年4月、メルパルク熊本
- ・「永青文庫藩政史料の魅力」永青文庫研究センター学内共同教育研究施設化記念講演会、2017年5月、熊本大学工学部百周年記念館
- ・「熊本被災史料レスキューネットワークの活動と課題」全国歴史民俗系博物館協議会第6回年次集会、2017年7月、九州国立博物館
- ・「永青文庫細川家文書にみる日本近代の胎動」熊本大学工学部工業化学科同窓会、2017年10月、熊本大学附属図書館
- ・「永青文庫研究・熊本被災史料レスキュー活動と歴史教育」第14回静岡歴史教育研究会、2017年12月、静岡大学人文社会科学部
- ・「伊豆地域の近代化と旧葦山代官所」明治維新150周年記念「富士・沼津・三島の幕末・明治」講演会、2018年1月、三島市民生涯学習センター
- ・「文化財レスキュー事業と古文書整理」文化財レスキュー市民サポーター養成講座、2018年3月、熊本県博物館ネットワークセンター

三澤 純

各種委員会

熊本市町界町名審議会委員長、くまもと文学・歴史館協議会委員、御船町文化財保護委員

講演

- ・「『熊本モデル』の成果と課題」、第4回全国史料ネット研究交流集会、2018年1月20日、於ノートルダム清心女子大学カリタスホール

編著書

- ・『熊本県議会史』第八巻(共著)、2017年6月

論文

- ・「熊本藩明治三年藩政改革の再検討—新出の道家家文書を手かがりに—」(熊本大学文学部『文学部論叢』第109号、2018年3月)

彙報・時評

- ・「熊本史料ネットの1年目の活動について」(『第3回全国史料ネット研究交流集会—愛媛—報告書(文化庁2017年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業)』[2017年12月21日])
- ・「熊本地震と未指定文化財の保全活動」(『暮らしと自治 くまもと』第136号[2018年2月])

安高啓明

各種委員会

八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会委員、勝海舟記念館（旧清明文庫）整備事業推進委員会委員、勝海舟記念館資料収集評価委員会委員、天草四郎メモリアルホール展示品評価委員会委員長

著書・論文

- ・「幕藩制国家と地域支配」（出口雄一ほか編『概説日本法制史』弘文堂、2018年2月、第8章担当、pp.258-296）
- ・「歴史博物館論史」（青木豊・鷹野光行編『博物館学史研究事典』雄山閣、2017年12月、pp.160-166）
- ・「寺沢広高」（五野井隆史監修『キリシタン大名』宮帯出版社、2017年9月、pp.349-360）
- ・「熊本藩軍功意識と創造された天草四郎像」（野藤妙・内島美奈子編『島原半島の信仰と歴史』花乱社、2017年6月、pp.64-69）
- ・「幕藩体制下のキリシタン政策—熊本藩を中心に」（島由季と共著）（『西南学院大学博物館研究紀要』第6号、2018年3月、pp.1-29）
- ・「震災時における組織的資料保全対応に関する検証—熊本地震の教訓にみる大学博物館の役割」（『國學院雑誌』118巻11号、2017年11月、pp.176-194）

書評・新刊紹介

- ・【新刊紹介】高塩博著『江戸幕府法の基礎的研究』（『日本史研究』第664号、2017年12月、pp.133）
- ・【書評】彭浩著『近世日清通商関係史』（『法制史研究』第66号、2017年3月、pp.254-258）

講演

- ・「熊本藩軍功意識と創造された天草四郎像」西南学院大学博物館2017年度春季特別展特別公開講演会、2017年7月1日
- ・「世界遺産登録を前に考える—キリシタンの悲劇と復活」第5回長崎文献社文化フォーラム2017年7月18日
- ・「時津町の歴史と犯罪史」時津町史談会歴史講演会、2017年10月29日
- ・「古文書を読もう—刑罪大秘録を読む」西南コミュニティセンター講座、5月11・18・25・6月1・8・15・22・29・7月6・13日
- ・「古文書を読もう—刑法方定式を読む」西南コミュニティセンター講座10月12・19・26・11月2・9・16・30・12月7・14・21日
- ・「古文書入門」熊本市東部公民会自治会、2017年度毎月第1・第3水曜日

竹島一希

論文

- ・「東家流の神道」（『国語国文』86-4、2017年4月、pp.228-240）
- ・「現代の連歌」（『島津忠夫先生追悼連歌集』私家版、2017年9月、pp.88-88）

書評

- ・「岡見正雄「心敬覚書—青と景曲と見ぬ佛—」（『国語国文』87-1、2018年1月、pp.14-15）

講演

- ・「連歌と信仰」（講座「連歌と白山信仰」、白山長滝神社、2017年6月25日）
- ・「連歌から和漢聯句へ」（第36回和漢比較文学学会大会、大手前大学さくら夙川キャンパス、2017年9月30日）

後藤典子（特別研究員）

著書・論文

- ・『近世熊本城の被災と修復』（稲葉継陽・後藤典子編著、第33回熊本大学附属図書館貴重資料展解説目録、2017年11月、18頁）
- ・『熊本城の被災修復と細川忠利—近世初期の居城普請・公儀普請・地方普請—』（熊本日日新聞社、2017年12月、230頁）
- ・「小倉藩細川家の葡萄酒造りとその背景」（『永青文庫研究』創刊号、2018年3月刊行予定）

永青文庫研究センター年報

第9号 (2017年度)

発行日：2018年3月31日

発行者：熊本大学

永青文庫研究センター

〒860-8555

熊本市中央区黒髪2-40-1

TEL 096-342-2304

印刷所：シモダ印刷株式会社